

～阿蘇の未来を描く～

第2回子ども議会

阿蘇市青少年健全育成市民会議(安部武夫会長)主催による第2回子ども議会が12月25日、市役所議場で開かれました。

子ども目線での率直な意見を市政に生かそうと一昨年の開催に引き続き2回目。市内3中学校から6人が議員となり、一般質問形式で大型スクリーンを使い、市執行部に鋭い質問、切実な要望をぶつけました。

議会内容の要旨をまとめましたのでご紹介します。

③



Aiga Sasahara
笹原 愛駕

一の宮中学校 3年

バリアフリー化やUD化を進めて！

福祉体験学習を通じて気づいたことは、一の宮にはスロープや手すりなどのユニバーサルデザインの施設が極めて少ないことです(JR宮地駅など)。誰もが安心して観光できる阿蘇を創り上げるためにも阿蘇の景観を崩さない範囲で、ぜひUD化を進めていただきたいです。

【答弁】

JR宮地駅のスロープ設置について、管理者であるJR九州に働きかけをしています。皆さんが阿蘇に関心を持たれることが、阿蘇の魅力向上につながります。2020年のオリンピックを見据え、国際化に向けての対応もこれまで以上に必要です。これからもご提案をお願いします。

②



Karin takena
武田 華凜

波野中学校 2年

列車の増便とバス路線の確保を！

阿蘇市全体の課題でもありますが、波野では過疎化が特に進んでいます。人が定住するまちづくりとして、市では具体的な方針があるのでしょうか。交通の便を良くすることで若い人も集まってくると思います。せめて波野駅から宮地駅までの列車の増便やバスの路線確保はできないのでしょうか。

【答弁】

具体的な方針の一つとして、都会から移住を希望されている方々に向けて居住先を提供する「空家バンク」の取り組みを進めています。列車の本数やバスの路線が少なくなっているのは、利用者の減少が大きく影響します。これ以上減らないよう、市民だけでなく観光客の誘致による利用者増の取り組みを進めていきます。

①



Akari Ichihara
市原 朱梨

波野中学校 2年

通学路の整備を！

波野中学校の通学路には、白線が消えている箇所や街灯が少ないところがたくさんあり、登下校時は非常に危険です。特に下校時間帯は暗くなっていることが多く、生徒にとっても自動車を運転する人にとっても危険性は増します。毎日利用する通学路の安全確保をお願いします。

【答弁】

市道に関しては、現在、補修を要する路線を中心にパトロールを重点的に行っています。また、通学路の点検は警察、教育課、建設課合同で毎年行っており、白線が消えている箇所は把握しています。今後、計画的に施工していきます。街灯(防犯灯)の件は、暗くならないうちに家に帰ることが原則ということをご理解願います。



1. 質問する笹原さん。議会を終え「本当の議会の雰囲気感じることができた。将来は阿蘇に貢献できる仕事に就きたい」と話した。2. 議場のようす。市議会議員をはじめ多くの傍聴者が参加し、議会を見守った。3. 大型スクリーンを使い分かりやすく質問した。4. 3人が交代で議長を務め、スムーズに進行。

6

5

4



Sakurako Hamada
濱田 桜子

阿蘇中学校3年

「然」ブランドの 効果は？

「阿蘇をもっと深く知り、未来につなげる」という学習活動の中で、阿蘇のブランド「然」の取り組みを知り、私たちも「然」の方々のように阿蘇のためにできることをしていきたいと思いました。「然」というブランドを立ち上げたことによりどのようなメリットが生まれましたか。

【答 弁】

この事業は2013年から始まった事業で、これまで他県の自治体や商工会から多くの視察がありました。「人」が主役であることを明確に打ち出したことで注目を集め、阿蘇市の活力を生むこの活動が、全国に広がりを見せています。2016年度からは「然」の人びとを巡ってもらう旅行商品を計画しています。



Keisei Nakano
中野 経成

阿蘇中学校3年

阿蘇山噴火による 観光への影響は？

阿蘇山の噴火に関するさまざまなニュースによると、観光面にもたくさんの影響が出ていますと報道されていますが、前年と比べ観光客数などはどれくらい減少していますか。また、今後、観光客の減少対策としてどのような活動やイベントを予定していますか。

【答 弁】

2015年9月の噴火による宿泊客のキャンセルは直後1週間だけで2,040名、金額は2千万円以上の損害でした。市では福岡市や熊本市でパンフレットを配布し、阿蘇が安全なことを周知しました。皆さんにも、自分の目で阿蘇山の現状を見ていただき、阿蘇山の状況を家庭や友達に話したり、さまざまなツールを使い発信してもらえればと思います。



Shota Miyaki
宮木 正太

一の宮中学校2年

私たち中学生が、 地域を元気に！

火山砂防フォーラムへの参加をきっかけに危険箇所マップを作成しました。各家庭への配布や看板を設置してほしいです。また、中学生が阿蘇の事を知り、主体となって活動するためにも、中学校での活動に地域の行事を取り入れ、そこから学んだことを地域へ還元するような仕組みを作ってもらいたいです。

【答 弁】

手作りされた「危険箇所マップ」の配布の要望ですが、効果的な利用方法を協議をしながら進めていきたいと思っています。中学生と地域の係わりについて現在、一の宮中は「コミュニティスクール」の推進校として指定を受けています。学校や保護者、地域が知恵を出し合いながら子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。